

58

特242
445

松岡
洋右氏の

憂國の叫び

非常時局に直面し

久留米市
佐賀市 有

志



0003674000

0003674-000

特242-445

非常時局に直面し松岡洋右氏の
憂國の叫び

[久留米市・佐賀市有志]

昭和9

ABA

目次

第一、非常時局に際して國民に訴ふ

- 一、非常時の確認が決心の基……………(一)
- 二、非常時とは何か……………(三)
- 三、歐米人と日本人……………(八)
- 四、近代物質文明は人間を悪魔化する……………(一〇)
- 五、大和民族の使命……………(一三)
- 六、政黨解消は非常時打開の基……………(一四)

第二、非常時を正視せよ

- 一、國際信義と松岡全權の決意……………(二一)
- 二、聯盟の認識不足は國民特に有識階級の罪……………(二三)
- 三、非常時打開は青年の責務……………(二四)

第三、非常時局に際し學生に望む

- 一、興國日本の大使命……………(二六)
- 二、女子の教養と國運……………(二九)
- 三、第二國民の決意……………(三〇)

非常時局に直面し松岡洋右氏の
憂國の叫び、を印刷配布せし趣意

昭和九年二月

佐賀郡市護國青年聯合會長

宇都宮三千雄

我等は國民皆兵（男女全國民）を實質化し其護國精神を以て舉國一致を恒久的たらしめ永續性を有する現下の非常時局を打開せんとして團を結び、非舉國一致の朋黨、非國家的徒輩の解消を主張し來れり。

過渡、松岡洋右氏九州各地各方面の人々に純真無私しかも卓見非常時打開の爲憂國の熱誠を振ひ一國一體の要を説き政黨の解消を主張し日本精神を甦生し國難打開に奮起を要望せしむるに松岡氏、聯盟脱退時の我等の主張松岡氏、數年の政黨人生活で黨人になれなかつた松岡氏の此主張は期せずして我等の主張と其大本が一致して居り、其誠、其熱、其識見は我等の同志否純正日本人全員の間かんと欲す所、聞くを要するものなりと確信す。

是我等が氏の講演筆記を印刷配布する所以である。只筆記補にして充分氏の意志を表明し得ざりし事を遺憾とするも大體は了解し得るものと信ず。



憂國の叫び

第一、非常時局に際して國民に訴ふ

一、非常時の確認が決心の基

斯く大勢の方がお集り下され、私の講演を聴かると云ふ事は、私にとつて非常に光榮とする處であります。私は今日演説に入る前に一寸皆様に御禮申し上げます。昨年春壽府から歸りまして五月一日夕刻、全國民に對して御挨拶申し上げます。熱心なる全國民の後援に對して御禮申して置きました。此の地に参りまして重ねて厚く感謝の意を表し皆様に御禮申し上げます。お禮申し上げるに付ても私の微力の爲め、國民の期待に充分添ふ事が出来なかつた事を遺憾に思ひますが、私は微力ながらも、力のある限り戦つた積りであります。けれども遂に四十二對一で破れました。實は五十三箇國あつたが十一ヶ國は棄權し殊に羅暹國の如きは議場に殘つて棄權を主張し、實際贊成を得たと同じ事である。即ち十一箇國は贊成しなかつたが、四十二對一で我が帝國は聯盟脱退の決心をして私は本國の訓令により引き揚げた次第でありまして、國民の期待に添ふ事が出来なかつたけれども我國は正義に向つて邁進した爲め、六十年の追隨外交を脱し本當の日本の姿を認め得たと確信して居ります。何れ私は微力なものですから満足な事は出来なかつたが、せめて一寸でも日本人の眞裸體にしたものを突出して見せた積りであります。

御承知の通り私は昨年春ジュネーブから歸つて直ちに郷里に歸りましたが、其の目的の一つは今年九十二歳の春を迎へた老母が私の不在中死なずに生き永らへて居りますので、久し振りに親の膝下に居りたいと思つて歸りました。

一つは聯盟を引上げ、其の前後に亘り歐米の各國を視察し遠くから我國の姿を見、實は憂慮して歸りました。そして半歳ばかり多く口を開かず筆も執らず沈黙を守り只管讀書し且つ靜思し半歳の間世界の趨勢と我國の現状を顧み、將に來らんとする大國難に遭遇して如何にすればよいかと考へた結果、過般政友會を離脱し衆議院議員をもお断りし、斯くして全國民に對し政黨解消を叫ぶに至つたのであります。

然し私は一厘の金もありません。削巧な人から考へると、無謀であり脱線の様に見えませうけれども、私は半歳の思索

の結果國民の魂に訴へ様と云ふ決心をしたのであります。

私は日本人には未だ大和魂が残つてゐると確信して居ります。故に私の魂を以て皆様の魂に訴ふるならば、必ずや反響を感ずると思ひます。斯の如き決心を爲すに至りました背景は、我國の非常時である、即ち將に來らんとする外交上の大國難に付て一應お話し申し上げないと、私が何故に一見無謀脱線の様な行動をするかと云ふ事が解らないのであります。

私は政黨解消と意見を異にせらるゝ人や政黨人が皆泥棒や詐欺師であるとは思つてゐない。又政黨の人は特別に米國から雇はれ、亦は支那から來た人でもないのではありません。日本人にして誰か國を愛へない者がありません。日本では泥棒でも愛國心を持つて居ります。そして政黨の中にも澤山の立派な人が居られます。中には悪い人もありますが、此の皆様のの中にも政黨の人が居られると思ひます。又政友會の人も居られると思ひます。私は政友會の鈴木總裁と最後の別れをするときは辛かつたのである、けれども國家の爲め己むを得ず去つたのであります。幾多の立派な人が政黨の中にも居らるゝ。過去四年間の政黨生活は個人から云へば大變愉快であつた、只公人としては不愉快な事があつたのであります。

然して私は國家と政黨と引換へる事は斷じて出來ない。私は生れるときから政友會員と云ふ札を首にぶら下げて生れたんじやない、皆さんも生れるときから政友會、民政黨と云ふ様な札を下げて生れたのでないと思ひます。お互ひ日本人として生れて居ります。それで吾々はお互ひ日本人である。政黨と云ふものは、政治をやる工夫であり運用であります。政黨が役に立たぬと云ふ時、國家の爲め悪いと云ふ時政黨を棄てる事は何事も無い筈です。

私達の親爺若い方にはお爺さんでありませうが、其の時代にはお主さん、即ちお殿様が總ての根本であつた。當時の忠と云ふ觀念は主として殿様が對象である。天子様ではなかつた。それは何故かと云ふと、天子様は雲の上のお方で、神様と思つてゐた左様な哲理の上に立つて居つたから私の親爺時代は日本人の重んずる忠君の對象は藩公殿様である。さうして何百年に亘つて厚恩を受けて來た此の殿様さへ。

天子様の爲め國家の爲めには一朝にしてやめてしまつた、此の熱意、此の正義、此の斷行力が、現代人にあつたら政黨位棄てることは何でもない筈である。況んや此の政黨は外國から借りて來たものである。昔の日本には政黨は無いのであります。政黨政治は英國が本家であり、それを吾々がまねた謂はば借り着である。借着であるから最初から日本人の身體には合はない。然も其の借着たるや泥だらけに汚れて居る。

心ある國民は眉を擧げて居ります。況んや獨逸、伊太利には最早政黨はない獨裁政治を行つて居ります。議會政治の本場米國さへ實質的に政黨政治はやつて居らない。大統領の意見によつて政治をやつて居ります。斯の如く、本家本元が政黨政治を止めて居るのに、我が日本が政黨政治を止め得ないと云ふ事は無い。然も泥だらけの汚れた着物が脱げぬと云ふ理由は毛頭ない筈である。然し政黨の方も日本人である以上、國を憂へて居られると信するが何故止め得ないか、それは非常時といふ認識が異ふからである。今にも政權を取らうと云ふ政黨遊戯に耽つて居る。そんな遊びをして良いと思つて居られるからである。私から見れば日本の現状は斯る政黨遊戯に耽るべき時ではないと思ふ。之は餘り暢氣千萬な話である。

非常時と云ふ認識が足りないから國を半分にして争ふと云ふ事が行はれる。今や九千萬同胞打つて一團となり、一致協力國政に當らなければならぬ時である。だから私が政黨解消を叫ぶに至つた以所である。

二、非常時とは何か

非常時とは如何なるものであるかと云ふ事を詳しくお話ししないと、私の政黨解消の決心が解らない。非常時を認識されたら、政黨の方と雖進んで政黨解消聯盟に加入されると信する。故に非常時と云ふ事に就て暫く御静聽を煩はし度い。其の前に一つ申し上げて置きますが、之は皆様にはいやな事であるが申し上げます。大和民族は世界の中で一番優良な美點を多く持つて居る人類でありますけれども、吾々も亦人間であります。人間である以上缺點があり、短所があります。其の缺點の中一番悪い缺點、慎むべき點は氣が短い、即ち熱し易く冷め易い直ぐに倦きるチヨコ／＼反動を起すこれです。今日の世界の變局を見ます時、而して我が國の立場に深く思ひ致します時、そんなチヨコ／＼ものにていて反動を起す様では國難を突破し得る等とは思ひもよらぬ。非常時と云ふ事を此の二年計り叫んで居りますが、最早非常時と云ふ事を倦いた感がある。最近或る政黨の總裁が、一九三五年、三六年は何處に不安があるかと云ふ意味の演説をされた。又記者述家等が非常時は解消したと云ふ事を書かれる。何故に斯る事を書いたり、演説をしたりするか、皆様政治家と云ふものは國民全部が反對しても正と信する事は斷々乎として斷行すると云ふ精神が無ければならぬのに、今日の政治家は國民の顔色を見る、國民の顔色を見てものを云ふ。又は筆を執る人は國民の顔色を見て筆を走らす。即ち筆によつて生活しなければならぬから常に國民の顔色を見て筆を執る。さうして只今申し上げた様な非常時は解消したと

云ふ様な事を書き、又は演説される。そろ／＼日本人は非常時に倦いたと見たから斯く云ふ事を書かれるのであります。新聞の報ずる處に依れば、齋藤首相は鈴木政友會總裁と會見された中に齋藤總理は議會政治を圓滿に運ぶには政黨政治をやらなければならぬ。だから非常時が解消したら政黨政治に歸らねばならぬと云ふて居られるが非常時は解消しない。苟も一國の總理がものを言ふ時は少し考へて言つて貰はなければ困る。

非常時はそんなに容易く、簡単に解消しないのである。勿論、私は齋藤總理とは非常な親しい仲であり且つ尊敬して居りますが、天が落ちたら云々といふ事は天が落ちそうな時でないといふ事ではない。非常時が解消したらと云ふ事は非常時が解消しなうな時でないといふ事ではない。斯る事を一國の總理が申されると國民の思想を惑はす。私は非常時は一年、二年で断じて解消しないと思ひます。

非常時が解消したら政黨政治に歸らなければならぬといふが、非常時は向ふ五年間は断じて解消しないと私は信じて居ます。而も廣い意味の非常時は大和民族が全人類の破滅せんとする此の現代の物質文明から救つてやる時迄解消しない世界を擧げて此の大和民族の眞の目的、眞の精神を理解しさらして皇道に基いて世界に平和を確立する迄其處に到達するに非ずんば非常時は解消しない。之を大和民族の使命とするならば、此の使命を全ふするには十年で出来ると思ひますが、此の正義を貫徹するには五十年は少くともかゝると思ふ。故に非常に速大な覺悟を以て邁進せねばならぬ。私は五十年でも出来ぬ、百年かゝらねば本當の目的を貫徹することは出来ないと思ふ。假りに五十年で出来るとしても五十年先になつて齋藤總理大臣は勿論、私共も死んだ後の事である。私は斯る十年、五十年先の事を語る能力を持たない。私の目標とする所は五年先の事である。非常時が解消したら政黨政治に歸らねばならぬと齋藤總理は言はれるが、日本の憲法の何處に政黨政治でなければならぬと書いてありますか、私は何の事か判らない。政治家には其の場限りのものを言ふ人が多きが餘程注意して物を言つて貰はないと人心を惑はすのです。

日本國民が何程非常時に倦いても、非常時の方で解消しないならば何うする、非常時はそんなに簡単なものでない。

隣國の露西亞を考ふるも思ひ半に過ぐると思ひます。ロシアは朝鮮、滿蒙と國を境し切つても切れない關係にあります。ウラジオには既に堅固なる軍港を築き其の北方一帯には十數萬の兵が駐屯して居ります。そうしてウラジオからハバロフスクに亘り超重爆撃機數十機を持つて居り、一旦事ある時は日本海を飛び渡つて空から爆弾を落し、或はバクテリアをばら

まきます。勿論露西亞のソビエツト主義には私は絶對反對で、そう云ふ事が到底成功することは無いと思ひます。

然し露西亞の領袖スターリン初め皆が幾多の難關飢饉に遭遇したに不拘、既に十六年間方針を一寸も變へず、直往邁進して居る事は感心します。十六年間です。日本人の様に二年位で倦く様な事はない。露西亞のウクライナには大飢饉が起つた。露西亞の事であるから、其の飢饉の地域から其の状況を報導する事を嚴禁されて居りますので、報導が洩れないけれども、私の懇意な友人が彼の地を實際見聞した確かなる報導に依れば、ウクライナだけで六百萬人は餓死して居ると云ひます。事實其の半分三百萬人にしても重大事である。日本にありましては、三百萬人はおろか三百人餓死するときは、内閣は崩れる否倒れるのが尤もである。三百人も餓死して内閣が崩れぬ様では政治ではない。然し此の點を云々するのは、六百萬人餓死しても今の領袖スターリン初めピリツともしない。而して一昨年末迄に第一次五ヶ年計畫を終り、昨年からは第二次五ヶ年計畫を着々實行しつゝあります。第二次五ヶ年計畫ではロシアは千九百億ルーブルを投ずる事になつて居る。今日國民の全所得は四百五十五億ルーブルであるが、今から三年後には國民の所得は千八十億ルーブルに達する見込である。ウクライナの飢饉も實は五ヶ年計畫の結果であると申します。即ち五ヶ年計畫では重工業に重きを置き、輕工業を軽く見る結果であります。

斯る難關に遭つてもスターリンには豫定の五ヶ年計畫を棄てないといふ所に吾々の學ぶべき偉大なる所があります。ロシアと日本は戦争すべきものでは決してない、戦争等はないものであります。けれども絶對に衝突が無いと誰が保證出来るか、而も露西亞のソビエツト主義が間違つて居らうが、十六年續けて豫定の行動を断々乎として繼續して居ると云ふ事は恐るべき事である。又之を助ける一億六千萬露國民には非常な強味があると思ひます。滿洲で日本精神を爆發させてから此處二年しかならないのに、軍人のやり方が悪いとか良いとか批評する日本人と比較して如何なる感じがするか、よくこの二つを比較して御覽なさい學ぶべき所がありはせぬか。

アメリカ合衆國は非常な不景氣に陥つて居りますが、今日政黨政治を行つて居ない全國民を擧げて大統領に政治を一任して居ります。而して大統領の爲す所を見ると、議會、政黨政治否法律でさへ無視して居る。全國民は大統領に白紙委任状をやつて超議會、超法律の政治を委任し、着々實行しつゝあります。之を圖みて、我國民のチヨコ

く反動を起す缺點は早く直さなければならぬ。今にして改める事が出来ないならば、我國民は何處に行くか憂慮に堪へない。今から十五年前の十一月十一日は、四年間血みどろになつて戦つた惨虐を極めた歐洲戦争の停戦命令の出た日であります。當時ロンドンタイムスは其の社説に曰く、昨日の打方止めをして世界的のものたらしめよ、且つ最後のものたらしめよ。之を以て世界最後の戦争たらしめよと云ふ事である。

それから巴里で媾和會議が開かれた。其の當時私は首席書記官として参りました。米大統領ウキルソンが會議から本國に歸り議會に對して報告したのに媾和會議によつて世界は明るくなつた。

今世界がデモクラシーに立ち歸る完全な場合であると非常な希望に輝いた報告をして居る、所が昨年十一月十一日迄十五年の歲月を経たのであるが、其の十五年の間、ロンドンタイムスやウキルソンの主張に合致したかあべこべになつて戦争はあちらこちらにあつて居ります。

何うかして戦争の無い世界にしたいと云ふので國際聯盟が出来た、其の國際聯盟は多少の効果はあつたにせよ、國際聯盟のあつたに不拘、歐洲は停戦命令の出た十五年はさておき、歐洲戦争直前に比し何倍かの不安と何倍の戦争の原因を以て居ります。

今やヨーロッパは非常な不安に襲はれて居ります、只今日ヨーロッパで戦争の爆發を見ないのは、この間迄何千萬人の犠牲を出した惨憺たる記憶が新たなる爲め、戦争と云へば歐洲人は身震ひすると云ふ状態、即ち戦争が恐ろしいから我慢して居るのである。それとも、一つは十五年の間に戦争の手段方法が進歩した、空軍の一つを考へても非常なる發達である、それに毒瓦斯も、バクテリア戦、殺人光線等も研究されて居ると云ふ状態で、戦争の方法が惡辣になつた爲め戦争を恐る、そして毒瓦斯は仲々戦はない。獨逸と佛蘭西は昔より仇敵である、現在獨逸と佛蘭西の軍備は比較にならない、媾和條約の結果獨逸は軍備を制限されて居るに不拘獨逸は決然として聯盟を脱退し、且軍縮會議からも脱退したと云ふ思ひ切つた行動に出た、獨逸として今の儘に進むならば滅亡するより外ない、滅亡する位なら徹底する迄やれと云つて死物狂ひになつて立つて居るのがヒットラーであります。ヒットラーは歐洲人は今戦争を恐れて居る、逆も戦争する勇氣はないと見て斯の如き思ひ切つた手段を執つたものと私は思ひます。

けれども根本の不安は依然として存在するから、何時かはヨーロッパに爆發する時があるんじゃないかと思はれる、ヨーロッパの現在は皆さんが現場に行つて見なければ話を聞いても判らない、之は私一人の私見ではないのであります、

十四年前に締結された媾和條約は眞の媾和條約に非ずして戦争連續の條約であつた。

今日の不安の直接原因はヨーロッパ戦争にある、又今日の不景氣の襲來した原因は媾和條約に不合理な條項が澤山あつたからである、故に此の條約は戦争を異つた形で表現したものだとも云へる、又條約締結後世界は何うなりつゝあるか皆様御承知の事と思ふ。

英國始め各國共國家主義に走つて居ります、外國の品物は買はないさうして自分の國の品物は先方で買はなければならぬと云ふ主義である、實に不都合な主義であるとして日本の品物は英國始め排斥し様とする、日本は昨年中八千五百萬圓の輸入超過をして居ります、即ち八千五百萬圓買ひ過ぎて居ります、日本は彼等にとつて良いお客さんである筈だが、日本品を排斥して買ふなと云ふ、日本の品物は買はないが日本人は我々の品物を買つて呉れと云ふ、日本人は外國の品物が買へなくなることは火を見るより明らかである、斯様に最も不合理な型に於て最も無理な形に於て國家主義が擡頭して來た。英國は十八九世紀に於て國際聯盟を主張し國際主義を盛んならしむる事に努力した、そしてそれに依つて英國は大變利益を占めた、英國が平和論を稱へ國際主義を叫ぶ理由は勿論世界平和が必要と云ふ事もあらうけれども、英國はさう云ふ方が利益である、白人は個人主義である物質的である、利潤觀念に徹底して居る爲め如何に理想であつても物質的でないものは信じない。

然るに日本人は余りに馬鹿正直である、普通の人ばかりでなく國務大臣迄が聯盟主義結構、國際主義結構と云つて居ります、尙日本では中等學校小學校に於てさへ國際聯盟とは如何なる事か、國際主義とは如何なる事かと云ふ事迄教育されて居る、何れの國に行つても斯る暢氣な事を教へて居る國はない又教へる暇が無いのである。此の間は或る偉い人が國内を遊説して國際聯盟でなければならぬ、國際主義が良いと吹聴した人もあります、さう云ふ様な馬鹿な説教をする者は歐米諸國には一人も居りません。現に此の間ジュネーブに於て一番私に食つて懸つたものは伊太利のクレバー、英國のクランキーと云ふ中年婦人四人と男一人であつた、此の人が私に面會を申し込んで來たので面談すると實に言語同斷の事を云ふ、然し私は暫く黙つて聽いて居つたがおかしくてたまらぬ、又一面少し腹も立つた女に議論を吹掛けられる位困る事はない、女は男よりもブー／＼しい、余り變な事を云ふので一寸待つて呉れと云つて、私は私の正しいと信ずる事を申し述べた。貴方等は平和の愛好者である、元來平和論を主張される方が非常に闘争的であり戰闘的である、平和は平和の手段で確立しなければならぬ平和論者に限つて日本攻撃をする非常な戰闘的だ、貴方達見た様に日本の國を理解しやうとも

せず、眞向ふから攻撃しやうとする様な人が何時でも世界の平和を素す人であると云つて置きました、斯る人が歐米にも居ります、然しこんな人は歐米の國家を双肩に荷ふ人ではない、然るに日本には國際主義、國際聯盟がどうだこうだと云ふ奇妙な人が居ります。

ヨーロッパはあの狭い所に三十六箇國あつて、道路の右側と左側に家が並んで居ると、左側は佛蘭西で右側は瑞西と云ふ様に國境が接して居るから寸時も油斷が出来ない、そう云ふ事を云つて居た日には國は三つ四つあつても追付かない。

三、歐米人と日本人

歐羅巴の政治は經濟を始め彼等は霸道あるのみである、政黨政治も霸道である王道では斷じてない、況や我國の型ではない、歐米文明今日の行詰りは一切が霸道に基いて居るからである。彼等の政治を御覽なさい如何でありますか、只多數人間が集つていみ合ふ、殊に團體の間で唾み合ひ喧嘩をやつて政治を行ふと云ふ事は王道では決してない、全くの霸道である又經濟機構資本主義そのものは良いとか悪いとか云ふ事は無いが、霸道を以て資本を動かすと云ふ所に今日の資本主義の悩みがある、親子夫婦兄弟の間すら霸道である、今日歐米人は夫婦關係を以て、あれは持ち寄り世帯で會社組織であると云ふ。

あれは民法上の契約ぢやから都合が悪くなればお互ひ同志が契約を止めれば良いぢやないかと云ふ全然霸道的である我々は斷じて斯様な事は排斥しなければならぬ。英吉利、亞米利加では親子でも一旦獨立してからは別物で他人同様だから、息子や娘が失敗して再び親の許に歸るには下宿料を出さねば入れない。又息子が百萬圓の金満家になつても、父母が一厘も無くなつたら下宿料を拂はなければおさんどん同様働かねばならぬ、それが出来ねば母でも養老院に入れる外ない。だから歐洲には養老院や孤兒院の堂々たる建物がある、立派な養老院や孤兒院があると云ふ事は如何に其の國民が同情心に缺けて居るかと云ふ事を表すものである。

日本にはそんな堂々たる養老院や孤兒院が無いのは大和民族の誇りである。子の無い老人が居れば親戚の者が面倒を見る、親戚の者が居なければ近所の者が引き取ると云ふ良い風習がある、私は英吉利に滞在中不足勝の月給を割いて他人の子供を學校に通はして居りました、それを見た英國人はそんな古代式の國民があるかと驚く、彼國では親子でさへも丁年に達すれば財産ははつきり分ける、夫婦の間でも特有財産あり、親子兄弟、夫婦これが法廷で争ふことなんか當り前の様に思つてゐるから子が親を養はない、英國人が赤の他人を學校にやると云ふ日本人の心が判らない、何十世紀以前に斯様な國民が居たらふかと云ふ位であります。

此處が日本人と西洋人と異ふ所であります。彼等は利潤觀念に益々徹底しつゝある、此の利潤觀念は主として資本主義機構に伴つた觀念であります、資本主義觀念が段々徹底するに従つて人間と云ふものは利潤觀念に徹底して來た、利益のないことはやらぬと云ふ、歐米人は利益のないことはやらぬと云ふ動物的である。大和民族は明治以來相當物質的に偏したところの歐米文明を輸入は致しましたが、日本精神は全部無くなつては居らぬ、全部吾々の日本人らしい所が抹殺されては居らぬのでありまして利益にならぬ事でも人間として行ふべきことはやります、國の爲め 天子様の爲には死んでも喜びます、死ぬ程損な事は無い筈です。

現に我が農村の如き若し利潤觀念が徹底して居るなら明日からでも止める筈です、損が行つても米を作る、ある人はあれは外に仕事が無いからやつて居るのであると云はれるかも知れぬがそれは日本人を御存じないからだ、多くの人ははつきり意識しないかも知れぬが、殊に今日農村の青年の如きは意識して居らぬかも知れぬが、矢張り祖先以來オテントウ様を拜んで働く事が人間として義務であると云ふ潜在意識があるのです。そして又日本人には自分は損が行くけれども矢張り働く、同胞の爲めに盡すと云ふ精神が残つて居るのであります。此の精神が纏て日本を今日迄引上げて來たのであります。利潤觀念に徹底したアメリカでは損をすると農村休日と云ふ事をする、日本人口の五割を占めて居る農村がアメリカの様に自分等が食ふだけ作ればよいと云つて働らかなかつたらそれは大變である、そんな事は日本の農民は決してしな

す。日本人も西洋文明にかぶれて悪くなつた様であるが、歐米人には比較にならぬだけ犠牲奉公の精神が残つて居ります。私は望みのない人間に呼びかけるものではない、だから西洋人には呼びかけない、今から未だ改悛出來ると思ふから私は此の舉に出たのであります。序に申し上げますが歐米人には忠孝と云ふ事が判りません、今日の日本はかなり西洋かぶれして悪くなつて居ると云つても、未だ小學校へ行つても忠義をせよ、孝行をせよと云へば判ります。子供と雖忠義とは何ぞや孝行とは何ぞやと云ふ質問は發しない、忠孝と云へば子供でもこれを實行するかと否とは別として何であるかと云ふ説明は要せずして判つて居る、ところが歐米に行つて御覽なさい學者や大人にも判らない、説明しても尙判らない、忠義など云ふことは我が日本民族は説明を用ひずして心得て居る、血の中にあるのです。それが今日の歐米人には判らない

それから孝行とは何んだ私も今日迄歐米人に接して日本人の持つて居る孝行と云ふ觀念を何とかして説明しやうと試みましたがどうしても徹底しない、余程知識階級の人が漸く理解では判る様な顔をする許りです、一通り孝行とは何ぞやと云へば、親を親切にすると云ふ位が關の山、我々の孝行ではそんな薄べらなものではない。次に甚だ皆さんの前で言ひ難いことですが、歐米では女の貞操と云ふ觀念が地を拂はんとして居ります、私が若い書記官であるとき外國人の友達と冗談話をしたとき、君の妻君は何處に居るかと聞いたので日本に居ると申しますと、そんなら日本に歸るときは親なし子が何人も居るだらうと云ひます、否そんな事はないと申しますと外國人はお國自慢も甚だしい、そんな結構な女が地球上に居つてたまるものかと云つて信用しない。

私が此の貞操と云ふ事に重きを置く所以は肉體にあるんじやない精神にある、人間と云ふ動物が社會を造り國家を造つて行く上に於て、信と云ふものがなくして立てるもんじやない、然るにたつた一人の女房さへ信用が出来ない、一人の女房さへ自分を裏切る、こう云ふ事に若し人間社會が情ちて行くならば吾々人間はどうなるか、人間社會に信と云ふものがなくなつたならば吾々は一体どうなるか良く考へて見ると、此の貞操と云ふものは非常に大事なものである、男女間が素れて羅馬は亡びた、否男女の間が素れて居るときに羅馬は亡びて居た。

日本の女にも近時西洋かぶれて居る者があるが、原則として貞操觀念があることは喜ばしい、男女の間が全く素れて尙存續して行つた帝國もなければ國民もない。

私の所謂貞操は精神方面に就て言つたのでありますが、斯様な文明が此の上何時迄も存續するものではないことだけを御覽になれば近代文明は行き詰りつゝあるのである、歐米の先覺者の中にも近代文明が行き詰りつゝあると云ふ事を自覺して居るものは相當にある。

四、近代物質文明は人間を惡魔化する

更に近代文明は極端に科學化し極端に機械化し、今迄千人を要したものが百人の力で足りる、更に進んで五人で其をやる、今日の失業問題は當然の結果である、千人を要したものを五人で機械を動かして出来るならば、九百九十五人は當然失業とならなければならぬ。

そうすると貴方方の中にはそんな事を云つても亦後へ戻つて昔の様に千人でやるのは馬鹿馬鹿しいと仰有る人があるか

も知れぬ。然しそれが現代文明にかぶれて居る證據です。一體何の爲めに機械化を行ひ、發明を爲し、科學を研究するのであるか、人間を如何にしてもつと幸福にしやうと云ふ爲めにやるのである。私はそう思ふ。然るに自ら發明したところの機械又は科學によつて自分が苦しめられる。大きな機械を造つて、其の機械に食はれて居る。何の爲の機械化、何の爲の科學化か判らぬ。自分が發明して作つたもので自分が亡ぼされつゝあるのです。それで今日では發明を中止しやうと云ふ議論が起つて居ります。

明治以來西洋教育で教育された我々は知らず識らず物質偏重の歐米の方程式でしか物を考へぬ様になる。茲に大變な缺陷が我々にもある。今の様に科學化、機械化それが大變な失業を生じた。そうして一面不景氣を捲き起した。

それが起りました當時日本にもさう云ふ人がありましたが、歐米にも景氣循環論など唱へて景氣、不景氣は一定年限でグル／＼廻るんだと云ふ氣休めを云つた人もある。ところが其の後の様子は何うも從來唱へられた景氣循環論を以てしては説明し得ないと云ふ風に考へて來たのであります。景氣循環論を以て今日の世界不況を説明し得るものとは思ひません。近頃多少時直した様に見える點はあるが、それは、何でもない人間は單調を嫌ふ動物であります。故に不景氣が餘り長く續くと酒でも一杯飲んで空景氣などつけると云ふことはある。

そこで多少上つたり下つたりするが其の根底を流れて居る原因に付て之を考へます時に於ては、現代世界の不況の如きは根本に觸れた所の大改革をし、大反省を行はない限りは私は大體此の失業問題などは斷じて解決することは出来ないと思ふ。之は別に六ヶ敷い事ではない、今申し述べた如く簡單なことである。人の手が段々いらぬ様な事を發明して行く、そこで失業者が出来る、當り前の事である。そこで私は假令千人がかゝつて作る所のものが、結果に於て五人で機械の力を借りて作り出すものと同じならば、何うしても失業者が止まぬ以上は私は後戻りして千人で作つたらいいと思ふ。千人が働いて飯が食へればその方が結構だと私は思ふ。人間を失業者たらしめると云ふ様な發明は此の邊で止めたらよい。斯の如くにして西洋文明は人間を惡魔化しつゝあります。

人間が惡魔化する、それは何う云ふ事であるか、即ち戦です、此の戦の科學が段々機械化しさうして出来るだけ多くの人間を殺す、大量的に殺すと云ふ方法に突進しつゝある。次の戦争におきましては、私は今より豫言して置きますが、戦闘員、非戦闘員と云ふ區別はない、お互ひ國家總動員と云ふて居る。既に國家總動員即ち國民全部が戦の爲に總動員される以上、戦闘員、非戦闘員の區別があつてたまるもんですか。現に歐洲大戦争に於てもさうであります、これらの戦

争に於て経済力をもつてゐる國民、非戦闘員はこれから後は戦争に對して直接にも間接にも、主として物質的何等の援助もなし得ない子供、赤ん坊、年寄り之れしかない、そうして戦争の様式と云ふものが段々變つて來た。主に空からバラ／＼やり出す、次の戦争は必ず毒瓦斯戦争になり、或はバクテリア毒瓦斯を落すに何所に赤ん坊が、何所に老人が居ると見分けることは出來ぬ、私は云つて置きますが、之れから後の戦争に砲臺や砲壘に對して突撃する程の馬鹿は居りませぬ軍隊の居る所を見當に突撃する程の閑人は居らぬと私は思ふ。成るべくそんな所はよけて空を飛ぶ、例へば日本なら大阪の様な経済的にエライ所を空から打ち壊はして來るに相違ない。今や戦闘員、非戦闘員は既にない、國家總動員である以上、兵士たると普通人たるとを問はず相手國民を出來得る限り迅速に、出來る丈け多く殺しさえすればよいと云ふ目的に走るに相違ない、此の方面に人類は突進しつつある。又殺人光線に就ては各國共相當眞剣になつて研究して居ります。之が愈々成功致しますならば、今度は飛行機でやるなんて云ふまぬるい事をせず立上つた瞬間スイッチを一つヒネツて相手の國民を盡殺しないと何人が保證ませう。さういふことは可能であります。現に一生懸命其の方向に突進研究して居ります。かう云ふ風に考へると現代文明の人類は今やお互に殺し合ふこと許り考へて居ると云ふことになる、逆も今の人類は昔我々の祖先がやつた様な馬上豊かに緋緘の鎧を着て名乗りをあげて一騎打をやると云ふ様な美しい戦は夢想だも出來ない、こんなことを云ふとそんな事は流行りやせぬ、そんな戦は馬鹿々々しいと貴方は仰言るかも知れぬ、さう仰言る方は即ち西洋かぶれです。我々はどうしても戦を免れぬものとする以上、せめて我々の祖先のやつた緋緘の鎧を着て名乗りをあげる様な美しい戦争をやつた方がよくはないかと思ふ。さう云ふ事を迂遠に思ふのは即ち我々が現代文明に囚はれて、知らず識らず自分も悪化しつゝあるのだと私は考へる。

五、大和民族の使命

斯様に悪化しつつある世界を救ふのは大和民族だけである。大和民族が世界の平和を確立し、人類を救ふ以外に何處の民族が救ひ得るか、國際聯盟退直後に喚發された詔勅の中に「大義ヲ宇内ニ宣揚シ」とあります。即ち大義を四海に布かねばならぬ、神武天皇創業當時この精神であります。建國の當初より世界を家とし、

皇道に基き人道を世界に敷くと云ふ精神が明にされて居ります。今日の日本人が、此の建國の精神を負ひ、この傳統の上に立つて世界に大義を敷く勇氣があるか、力があるか、私はあると思ひます。之が大和民族が天から與へられたる使命であると思ひます。之を要約して申し上げますと

- 一、現代文明は亡びつつある。
- 二、此の亡びつつある現代文明を救はなければならぬ。
- 三、救ふのは大和民族より外にない。

と云ふことになる。

それから第二の我國特有の事情から來る非常時、之は人口増加であります。御維新以來數十年間は領土も多少は廣がりましたけれども、それと釣合のつかない程我が人口が増へて居る。三倍迄増へて居る。そこへもつて來て泰西文明を輸入して物質方面に日本も亦走つた。其の結果私共の親父、祖父さんの時の人間の物質的慾求に何倍した慾求をお互にもつて居る。其の物質的慾求が親父や祖父時代に較べて假りに三倍になつたと假定して人口に乘ければ、九倍になつたと云ふ結果になる。十倍になり、十五倍になつたと云ふ事も出來ませうが、假に九倍になつたとお考へになつてよくもそれが爆發しないものだと思ふ方が不思議なんです。ところで斯の如く爆發しない主な原因は、第一に日本精神がまだまだこれでも相當残つて居ると云ふこと、制度の上に於ては家族制度が未だ完全には崩れて居ないと云ふことです。

次に外交國難でありますが、外交國難の原因は、大和民族が有能であるからである。大和民族が、今少し無能なら私は外交國難は大して起らないと思ふ。

オリンピックでは十六歳の少年が水泳では一等をとり、ベ이스ボールも負けない。又日本人が日本の歌を唱ふなら問題はないが、外國の歌を唱つて料金をとる、又音楽會を開いて西洋人に聽かせる。之は何の事もないやうじやが、日本民族の有能であることを裏書するものである。之を外國人は恐れて居る。

外交國難の大部分は日本人自ら蒔いた種である。故に外交國難と云ふ意味に於て、非常時と云ふことが耳障となり嫌になつた方々は我が大和民族を今少し無能になさるより外にこの外交國難を遁れる方法はない。大きくなりつゝあるから大木に風が當ると同じである。非常時が何時解消するか、それは木を切り下げて風が當らぬ様にすればよい。無論さう云ふ事は出來るものでない、凡そ一民族が其の宿命に基き、大發展の機運を以て立ち上りつゝあるものを遮る力は天地の間に

何者もない。

(一四)

冷静にこの大和民族近來の發展振りを御研究なさるれば、明白に大和民族は、此處に何か大使命を天から與へられ、今や其の使命を果す爲大なる勢を以て發展しつつあることが認識されるのであります。

此の世界民族を救ふには、何うしても幾多の國難に遭遇する難關が横はつて居ると云ふことは明である。斯様に考へると非常時は何時解消するか、私は外交は多少學んだ、又多少關係して來た。又國內政治も多少經驗したが、今日の非常時を見、變世界局を見ると、大體五ヶ年が非常な國難であると思ふ。二年後か、三年後か、四年後かに非常な國難が襲來すると思ふ。下手をやれば最悪の場合があると思ふ。

來らざるを待たず、待つあるを待む時は或は最悪の場合が起らずして済むかも知れぬが、之は判らない。私は凡夫である、爲に斯様に心配する最悪の場合が來るか來ないか判つて居るならば私は郷里に歸つて釣でもして遊びます。最悪の場合が來てもビクともせぬ様備へなければならぬ。

日本が目が醒めない時は天が外部からガンと最悪の場合を與へる。其の時日本人は偉大なる形を以て世界の地平線上に頭をもたげるのでないかと思ひます。然し將來のことは天のみぞ知る、人間凡夫が知る必要は更でない。人間は人間だけの仕事をすればよい。最悪の場合があつても之を突破する準備を養つて置く事が必要である。私は最悪の場合を突破し得ると云ふ望みを絶て居ない。

我々の眼前には今や大和民族の興廢を決する運命が迫つて居ると云ふ事を頭の中に入れて置いて頂きたい。その大和民族の興亡を決する運命を突破するには、大和民族一人残らず協心戮力、和の一字を以て貫く外はないと思ふ。

六、政黨解消は非常時打開の基

斯様考へて見て、現在の日本の有様を見ますと云ふと、何うしても政黨と云ふものが妨になる。私は政黨人を特に悪いとは申しませぬ。けれどもこの政黨が存在して居る限り一方が良いと云へば一方が悪いと云ふ、全國到る處に尾を曳いて相争ふ。

政黨の動きと云ふものは、民政黨であらうが、政友會であらうが、東京に於ける幹部の其の内の何人かの意志に依つて政黨を動かし、大部分の政黨人は政黨の動きに關係ない。其の少數の幹部の中には立派な人も居るけれども、中には人格

者でない人が居られる。換言すれば政黨の動きは東京の幹部の大臣病に罹つた私心によつて右向け左向けをして居る。

皆様はさういふ様な事によつて政治せらるゝ事を望みますか、我國の危機を本當に正視するならば、左様な事を何時迄も認める譯には行かぬと思ふ故に私は今回政黨解消を天下に向つて叫ぶことになつたのであります。

暫くの間政黨解消の事に就て申し上げます。私は政黨解消後に於ける各方面に對する案を持つて居りますが、それを何故言はないか、私が今それを發表すると政黨解消は飛んでしまつて解消後の案を議論する如き結果となります。

政黨を解消すると云ふ事が今日の私の目的である。我々の親爺時代に大政を奉還しなかつたならば、明治維新は出來なかつたと思ひます。あれだけの事を思ひ切つて断行したればこそ明治維新が出來た。

我々は昭和の大維新をやらなければならぬ。政黨解消が出來るならば大改革案は出來る。政黨解消が出來ないならば議論するだけで何にもならない。之れ私が政黨解消を叫ぶ所以である。

日本人には未だ西洋かぶれをして夢から醒めない者が多い。皆が非常時非常時と口には云ふけれども、非常時を突破し様と言ふものは老人ばかりである。

高橋大藏大臣は八十二歳、齋藤首相も八十近く、内務大臣も八十に近い。斯う云ふ重大な時八十を越したり、八十近い老人達が非常時を突破しやうとして居られます。何處の歴史に八十の老人が大變革を起したと云ふ事がありますか。

あれば見せて下さい、無い筈じゃ。實は八十歳の老人が非常時を切り抜けやうとするのが間違ひである。やる方も間違つて居られる、然し我が國民は平氣で之を見て居ります。

明治維新は二十歳前後の青年がやつた。西郷隆盛が四十幾つかで當時一番老人であつたと申します。松岡五十五歳になります。世間では若い政治家だと云つて居ります。歐洲大戰のマルヌの戦に於て獨逸軍の爲めフランスは危地に陥つた時、三十代の青年將校を拔擢して少將に任じ指揮させた結果、漸く戦線を突張たと言ふ事です。私は勿論敬老の一人であります。然し何と云つても年を取ると熱がなくなる、勇氣が缺けて來る人間として仕方がありません。私は二十六歳の時支那の總領事として帝國を背負つて立つたのであります。其の時の元氣は今はありません。

今や日本は非常な危機に遭遇し幾多の變革を要求して居ります。八十歳の老人が第一線に立つて居ると云ふ事は間違つて居る、御老人方は第二線から見居られるのが本當である、老人は何うしても青年に及ばない、之が嘘なら二十歳の青年と

(一五)

八十歳の老人と坂を上りごろしたら直ぐ判る、氣力と云ふものは體力に比例するものであります。

齋藤總理大臣は御老體にも拘はらず仕方なく蹇々匪躬の節を盡して居られます、之は若い者に意氣地がない證據であるけれども日本は齋藤さんや、山本、高橋さんが辭められても日本は亡びないと思ふ、寧ろやつて居らるゝよりもやめられた方が國家の爲になりはせぬかと思ひます。が然し未だ政權を政黨に渡す譯には行かぬ、何となれば御承知の通り五、一五事件は其手段方法を私は善いとも悪いとも言はぬが、がんと一弾やつたら五十年努力して出来た政黨が一朝にして破壊した。亂暴をしたから政黨が破壊したのでない、五、一五事件をやつた人のあの手段に賛成はしないが、兎も角私心なく命を投げ出してやつた事は間違ない、「政黨も正と信するならば生命を棄て、戦つたらよいではないか、争つたらよいではないか。

所が争ふ事が出来ない、政友會は三百餘名を有しながらも天下を執る事が出来ない程無力である、私が政友會に居る頃或代議士が政友會の大改革をして呉れと頼まれた事があつたが私はことわつた、若し夫れを遣つたら國民中心ある人は松岡も矢張り一政黨人に過ぎなかつたと言はれたでせう。斯様に申しますけれども私は決して喧嘩を求むるものではない、私は政黨人諸君と喧嘩をやる氣は一つもない、私は政黨人生活四ヶ年でありましたが、政界に入る時甚だ微力であるけれども一滴の清水となつて、又他にも同様の考へをもつて居る人も多々あるであろうから、之等と力を併せて出来る事なら政黨の改善を行ひたいと斯様に考へたのであります。

だから私は政友會の立候補でありながら政友會も民政黨も完膚なき迄やつつた、然し四ヶ年の私の政黨生活は遂に私をして絶望せしめ、遂に今日の行動に出たのである。

政黨が間違て居る事は金が要る事である、選挙の時には金が要る、立候補せる以上勝つ決心で立つ、日本人である以上利益等考へない、必らず勝たねばならぬ、かつばらつて来ても勝たうとします其處に日本人の強味がある、斯う云ふ日本人に政黨政治をやらせるのは間違つて居ると思ふ。直ぐ源平の戦になる、主義綱領はつけたりで理屈も何も無い、あの人政友會に入つて居るから私も政友會に入ると云ふ様で、この點は西洋人に比較すると日本人の方が人間らしい、斯う云ふ性質だから選挙の時は何でもかんでもない、戦へそして勝てと云ふ事になり理屈も何もいらぬ、勝ちさへすれば良いのである、選挙が腐敗するのも當然で利權を約束する位は當り前であります。

今日青年將校が政黨はけしからんと云はれるけれども、そう云ふ青年將校でも政黨人になれば同じ事をされる、孔子様

が人心之れ危し道心之れ微なりと云はれて居る通り、人間を間違はせぬ様な環境に移すと云ふ事が政治の根本でなければならぬ。

しかも我國で發達した政黨は我國で産み出したので無く、これを生み出した本家本元は英國である、他所の借着であるイギリスの政黨はイギリス人の如きゆとりのある餘裕のある國民性を俟つて初めて妙味がある、我々は源平の戦の如くすぐ喧嘩をする性質を持つて居る、勿論悪いとは云はない、然しさう云ふ性質を持つて居るからイギリス人と一緒にならぬ、事實あれ文の餘裕のある國民であつたから、霸道によつても尙且この運用は中々うまく行き、現在の大英帝國を造り上げるに多大の貢獻をして来た事は事實であるが、日本人の國民性に合致しない、國情に合はぬ借着である、併も其借着は泥だらけにヨレ／＼になつて居る、本家本元が皆止めつゝあるから我國でも止めなければならぬと思ふ。

還境を良くすることが必要だから私は政黨解消を主張する。

齋藤首相は議會政治を圓滿にする爲には政黨政治が必要であると云はれて居るが、日本の憲法の何處に政黨政治でなければならぬと書いてありますか。イギリス人は反對黨が政權を執つても、國家の重大事と云ふ時には政黨を忘れ國家の利益の爲に協力するが、日本に於ては反對黨が政權を執ると明日から攻撃する、従つて内閣はこわされまいとヒヨロ／＼して二年許りすると崩れる。政黨内閣に關する限り前内閣の最も力を入れた政策は次の内閣では必らず棄てなすにする、斯くの如き有様であるから國家百年の計を樹てる事は出来ない。だから政黨が勢力を得て居つた間に滿蒙は衰へた、政黨は自分の内閣を守るに一生懸命で滿洲問題に力を入れる餘裕がない。

又豫算に於てもその通りで政黨が内閣を執ると、第一年目は前内閣の豫算を踏襲する、第二年目に漸く自分で豫算案を作成しうまく行くと議會を通過して、漸く自分の豫算を實行し様として居ると内閣がつぶれる、丁度賽の河原で子供が石を積んで居ると閻魔様が崩されると同様である。

こんな風であるから外交方面に於ても終始一貫した方針が樹たない、日本が今日斯く偉くなつたのは 明治大帝の御在世中元老が居つて、國家の大方針を少しも換えず勇往邁進したからである。

然るに最近の状態は如何です、滿蒙問題に就て政友會内閣の時、滿洲に民政黨議員連が來ると支那人は政友會の悪口をさん／＼やる、民政黨の代議士は悦んで日本に歸り、議會で政友會を攻撃する、民政黨内閣の時には政友會の代議士が滿洲視察に行くと民政黨の悪口をする、すると喜んで歸り又内閣攻撃の材料にする。斯の如くして順繰り／＼張作霖を使つ

て内閣攻撃材料にした、故に二十萬の在留邦人が憤起して、二年前に大和魂を滿洲に爆發させたのであります。やつたのは軍人許りじや無い、軍人が二十萬の在留同胞と憤激を共にされたのである、此點認識不足してはならない。

日本では議會中心と云ふ事はあり得ないと思ふ、日本では、天皇が政治の中心であります、日本の政治は、天皇の政治である、故に我々は、天皇の政治を翼賛し奉るより外にない、然るに我國の政治家は日本の、天子様の御政治であることを忘れて居る。

數年前には議會中心主義を唱へた政黨すら出たではないか、その當時今の政友會總裁鈴木喜三郎氏が内務大臣であつた時議會中心主義を反駁した、爲に殆ど時代錯誤であると言はれ、甚だしきは憲政の反逆者であるかの様に思はれたではないか。一体日本で議會中心主義など云ふ事を相當思慮あり學問ある人が云ふといふ事は何事であるか、私は政友會に入りましても斷じて左様な主張は認めなかつた。

考へて御覽なさい五、一五事件でがんとやつたら、其後議會中心主義など中の字も出ないではありませんか。

政黨解消とは立憲政治の否認ではないか、斯う云ふ問を發する人があるが、斯う云ふ問に對しては私の方が恐れ入る、それは日本の憲法を御覽なさるが良し、一目瞭然何處にも政黨政治は憲法の常道なりと書いてあるか、伊藤公の憲法義解を讀めば、そこには政黨を少しも豫想してゐなかつたことが判る。日本の憲法が政黨を豫想して作られた憲法でないことは明白の事實である。

日本の政治に當る人は、天子様の御前に跪ぎ恐懼して政治を執らなければならないのに、政黨と云ふ間違つた團體の中に居ると、環境の爲に間違つた政治をする事になる。

日本を態々半分宛に別けて喧嘩して政治をやつてどうして此の非常時が突破出来ると思ひますか。

世界を擧げて合理的に、科學的に進みつゝある際、**國家總動員で國難に當らなければならない時であるのに、それでも半分宛別れて、後の半分が晝寢でもして居ればよいが、半分は政治の任に當り、半分は一生懸命に之を妨げる、國家總動員の今日斯の如き制度が間違つて居ると思ひませんか。**

民間會社でも、株主が半分宛別れて喧嘩してどうして會社が繁昌しますか。

米國は前に申し上げました通り、大統領が超議會、超法律の政治をして居り、スターリンは絶對的獨裁權を以て政治をやつて居るではないか。

今日若し再び政黨内閣に歸るならば、帝國議會でできた補助金でも政黨に貢をしなければ、補助金が貰へなくなる。法律でやる補助金は一文でも目的以外に使用すべきでない、その補助金は抑々國民が納めた税金であります。自分が納めた税金を貰ふのに政黨に喰はせなければ貰へぬと云ふ事が、天子様の下で行はれると云ふ事が畏れ多くはないか。

國民に對して濟んでも、一天萬乗の、天子様に對して濟むと思ふか。

大阪、東京初め二十萬圓、三十萬圓の經費のかゝる事業は變る／＼内閣をとつた政黨に金をやらなければ商買が出来ぬと云ふ有様である。

それでも國家の大策を遂行し、國民を安定さす對策を講じて呉れるならば、私は忍びますけれども、そんな事は出来なう。

さうすれば皆様どこにとりえがありますか、五十年の政黨政治の迹を見ますと我々の先輩は生命をかけて血を以て政黨史を作つて居る又政黨も國家のため、相當御奉公をして居る。それを私が認めぬと云ふのではない、政黨が只慾だけで、自分の利害觀念だけでやつたとは決して申しませぬ。けれど効は少くして罪が多い、國難に對して和を以て救はなければならぬとき、どうして政黨解消が出来ないか、政黨が重いか、國が大切であるか、然るに或人は松岡の政黨解消は時代錯誤であると言つた。

二十世紀の今日、世界の形勢は政黨政治を棄てておるぢやないか、どつちが時代錯誤であるかよく考へて見るがよい。最後に皆様に重ねて申し上げておきますことは、世界の變局を正視して下さい。

そうして大國難、大和民族の興廢を決すべき大國難の來ることを忘れてはならないことです。

改革すべきものは改革せねばならない。それをするには協力、和でなければなりません。

既成政黨を廢し、國民相和し一國一體を實現し、國の傳統たる一國一家主義を確立し、西洋かぶれの着物を棄てて皇道日本に立歸り——富士山の如く玲瓏なる大和民族の姿を以て臨んだならば、世界は必ず之に靡くと思ひます。今日皆様特に青年の方に申し上げます。

斯る變革は青年の熱でなければ出来ない。至誠を基とし、青年の熱を以てやるならば、何事か成らないものはない。故に青年諸君の魂に私は訴ふ。

然し熱と言ふも徒に大言壯語する事は出来ない。冷靜に國を憂ひ、所信に向つて斷行すればよい。

そして政黨解消聯盟に御加入下さい。御加入しなくとも、獨立して團體を造られてもよい。先づ自分の住んで居る處の村から政黨を無くして下さい。その位の事が青年の力で出来ぬ事はない、自分の村だけでよい。次の村は次の村の青年が政黨を無くすればよい。

青年が結束してやるならば何事も出来ると確信します。斯くして郡がなくなり、縣から政黨がなくなると、國から政黨を無くすることが出来る。その際は私の案を示します。

要約すれば、我々の頭上には未曾有の國難が横はつて居る。日本人である以上、之を切り抜けなければならぬ。又それにはこの借着たる政黨を一刻も早く解消しなければならぬのだ。解消するには青年の熱を必要とする。

吉田松陰先生は「至誠にして動かさるものは未だ之あらざるなり」と喝破された。そして明治維新が成就したてはないか、青年が奮起して、國難に當つてくれるならば、私は明日からでもやめます。この點特に青年諸君にお願ひします。政黨遊戯に耽つて居る時でない。政黨の人でも眞に國の爲に奮起して頂きたい。

終り

第二、非常時を正視せよ

一、國際信義と松岡全權の決意

滿洲事變勃發以來、國際聯盟に於ける折衝に於て、動もすれば我國は食言を使ふ嘘をついた形になつたのであります。自ら食言しやうとしたのではありませぬ。

けれどもやり方が悪いため、歐米に於て日本は嘘つきである、斯う云ふ風に考へてゐたのであります。それに先方にも元より認識不足はあらう、又我國に於ても何もとがむる點は無かつたが反省する處は無かつたか、私がゼネバーに参ります際に於て、嘘つきにはならぬと國民にも御約束し、又自から深く誓つて出發したのであります。

滿洲事變勃發して、忽ち聯盟に於て大問題を引き起した。其後我が代表は日本軍は齊々哈爾には行きませんと言つた處で間もなく行つた。聯盟では鐵道沿線に引き揚げを要求し、我が代表は之に同意して、引き揚げますと決議しました。其の後何うなつたか貴方方の御承知の通り益々出て行つて、全滿洲に發展をした。錦州には時の外務大臣が兵を集めぬと言つたが、直ぐに行つたではないか。暫くすると亞米利加政府は日本にとつて大變不快な態度をとつた。時の亞米利加國務長官スチムソンはあの通り日本に對し、非常に不快な態度をとつた。このスチムソンが、或る人に對して話をした。何う云ふ事を言ふたか、斯う云ふ事を云つたと其の話を傳へ聞きました。それはアメリカ國務長官スチムソン氏は日本が滿蒙を皆とりたければ取ればよい、アメリカが取りたいなら大手を振つて取ればよい、私は日本政府の云ふ事を信用した爲めに國務長官として、全米に向つて、日本は決して錦州には行かない。日本を疑つてはいかないと云つた處が、暫くすると錦州をとつた。さうすると私は米國民から、まるで馬鹿ものにされて了つた。國務長官の威信は地に落ちた。一たい日本のものは嘘を云ふと云ふことを憤慨の餘り話しをしたと云ふ事を傳へ聞きました。この話は當時のアメリカ國務長官の話を此の人が不肖に話したことであるが、これを貴方は御聞きになれば、この間の行き違ひが判るだらうと思ひます。聯盟に於ては幾度も決議して同意しながら、翌日から守らない。之は守れなかつたのでありまして、決して故意に嘘をついたのではありませぬ。

くだらぬ聯盟の決議に日本の代表者不用意に同意したため斯様な結果となり、歐米人は日本は嘘つきであると思つた。これだけは歐米人が悪いとは思ひませぬ。

歐米人が認識不足したのでない、自分の方に用意と信念がなかつたため、嘘つきになつた事はもう十年かゝらねば拭ふ事は出来ない。残念であります。

滿蒙は我國の生命線であり、我國にとつては非常な大事な問題である。けれども御承知の通り滿蒙と同様大事な事は國際信義である。我國の信用であるこゝに大和民族は信義をもつてたゞねばならぬ、これが地に落ちる事は大きな問題であります。私は左様に考へてゐます、寔に残念であります。私は斯様に考へてゐる、うそだけはつかない、同意出来ない事は何うしても出来ない、そう云ふ考へを以てゼネーヴァに参りました。今一度裏からヒツクリ返して説明するならば日本の言ふ事は當にならぬ、日本軍が熱河に遣入つて来た、その時聯盟側では必死の力で何とかして熱河だけはやらせないと思ふ考へをもつ、支那側は聯盟に泣き付いて日本軍が熱河より引き下がる様願つた。之を先づ何とかしやうと思つて、私に非常に談判したけれども、自分の命ぜられた任務が果される時が来てゐる私としては苦しい立場、私は考へた、日本軍を少くとも手控へさせる事は出来るものでない。熱河はやつつけるが良い、手控をすれば支那人がいゝ氣になつて、向ふから突いて来るから戦はねばならぬ結果になる。日本軍が儼然として臨みさへすれば戦はないですむと主張して。之に應じなかつた。

其後、熱河の成行は御承知の通り、全速力で逃げて百何十名の爲に降参した。我が巍然たる態度をとつたら戦はない。關内進出の時も同様の事件が起つたが、進出をしないと云ふことを保證しなかつたから、天津、北平に進出しても文句は言はなかつたではないか。

一、聯盟の認識不足は國民殊に有識階級の罪

滿洲事變が勃發した當時、若槻内閣に於て外務大臣、陸軍大臣、總理大臣は意見が違つてゐたではないか、内閣の中一意見が分れてゐることを新聞記者は毎日新聞で發表する、日本の新聞にこの通り報道される、日本で聞く事の出来る又傳へられる事は歐米でも聞く事が出来ぬ筈はない。歐米に傳へられない事はないのである。歐米では日本の軍閥めが、斯う云ふ事をして居るが之はいかぬ、當時歐米人から見れば、今外務大臣なり總理大臣を確かり助けて軍閥を抑へつけねば

ならぬと考へた。斯う云ふ事を判然と書いてゐる。

又「インテリ」階級の大部分は東京邊でも軍人等めがこれではいかない、軍閥を押へてやらう、斯う云ふ考へを持つものもある。斯う云ふ考へは亞米利加の國際方針であります。彼等を最も認識不足に陥らしむるものは日本國民、殊に日本の有識者諸君、日本の新聞記者の諸君である。お互に反省しなければならぬと私は思ひます。

私が今迄お話しした主なる理由は何處にあるかと申しますと、私は壽府から歸つて間もなく申しました如く、壽府に於ける我國の外交戦は僅か三番叟であります。愈々本舞臺はこれからであります。そこで天が日本國民を試す爲に、聯盟を脱退して準備を爲さしめたのである。斯様に思はれるのであります。私が壽府から歸つて國情を觀ますと、餘り感服しないそれから引き込んで國情を研究した。益々感服しない。

歐米は事情を良く知らないから、滿洲問題が判らない様に我國には歐米の事情は判らない。それは知らず／＼混血兒になつてゐるから判らない。そこで聯盟脱退しやうと云ふ間に御承知の通り、東京邊では脱退す可からずと運動をしたり脱退を極度に恐れを抱いてゐた。今の内閣の中に御出になる方もいかぬと云つてゐた。されば何うして脱退したか、却つて我國の純真なる大衆が承知しない。私共は不肖ながら第一線に立つたので多少は彼を知つてゐる、力を知つてゐる。壽府に第一線に立つてゐた同胞は一人残らず脱退すべしと云ふ意見であると新聞で報道されてゐた。壽府に第一線に立つた我々特派員、新聞記者、居留民に至るまで、斷乎として引揚ぐべしと云ふ意見に一致してゐたのであります。獨乙は聯盟を斷然引揚げたのではないか、而して軍縮會議も脱退した。獨乙と日本と比べたら恥しいことはないか、何うして日本は判らないか、何うも西洋かぶれしてゐるお蔭であらうと思ひます。私共から見れば聯盟を脱退しても歐米は何んにもするものでない、その後何んにも起らないことは判つてゐます。

經濟封鎖等色々心配してゐる、當時こちらから願ふたなら歐米諸國こそ困難したのである。何にも起らない事は吾々にわかつて居た事で、何の不思議はない。兎も角おかしな心配であつた、けれども我が信する處に邁進するためには聯盟を引揚げる事を斷々乎として進まねばならぬと決心しました。日本人は熱し易く冷め易い。もう非常時には飽き現今の國民は氣が弛むたのであります。

私は非常に憂ひて居ります。それに就て御話をする時間もありませんから、極めて簡単に申し上げますが、非常時は我國一國だけの非常時ではない、世界を擧げての非常時であります。現代文明の中堅である處の歐米、この物質文明である

歐米が今や亡びんとしてゐます。歐米文明は全速力を以て自滅に突進してゐるのであります。アメリカを御覽なさい、世界第一のアメリカが一番不景氣のドン底になつてゐるアメリカの不景氣の根本はなんであるか、資本主義機構が最も徹底した爲めに不景氣のドン底に落ちて居る、アメリカは現代文明の行詰りで悩んでゐる。それから支那は支那自體のあの通り今や混沌となつてゐる。我が日本も先程申し上げた様に、現代文明の一部を取り入れた爲め、吾々は非常な悩みを以て居る。處で我國ではそれだけではない、我國特有の事情によつて悩んで居る。吾々が日常生活に於て求むる物質は何倍になつてゐます、たゞ人口が倍になつたと云ふ様な簡単な問題ではありませぬ。茲に私は大變な悩みがあります。我國々内に於て幾多の悩みを生み出してゐる、是れが大きな原因であらうと思ふ。

日本は今や外交國難である。又貿易にしても至る處に日本の品物を入れまい／＼としてゐる。そこで日本は外交國難に悲鳴をあげてゐるのであつて、これから大和民族は發展し偉くならなければならぬ。全人類を相手として大和民族はやつて行かねばならぬ。その間幾多の難關が横たはつてゐる事は承知して置かねばならぬ。例へば木が高くなればなる程風があたる事は當り前である、物は發展する時には遮切る事は出来ない、兎も角我民族の發展してゐるそれを防ぐ事は出来ない。然し國難があることは覺悟して置かなければならぬ。非常時國難と云ふ事を覺悟し、吾々が世界人類を指導するときでも尙吾々には厄介なもの、國難が伴ふのであります。

今日世界の四分の一を有する英國は、一番悩みを以てゐる、苦勞は絶へない、そこで國難いやだとおつしやるならば弱い國になるより仕方ない。日本人は熱し易く冷め易い、この點反省して貰ひたい。

三、非常時打開は青年の責務

日本の内でも非常に思ひ切つた若い人達、青年將校達、彼等の行動は時に矯激であるか判らない、吾々年をとつたから熱が冷めた、日本に熱ある青年がいなければ國は亡びるではないか、然して青年をして正道を邁進せしむるには其の根本に不安がある、その不安を除去しなければならぬ。

國內の非常時に際してゐるのである、だから政黨解消を叫んでゐるのであります。私は政談演説をするのでないから控へて置きます。政黨解消を叫んでゐるのは、一國一體、この主義に歸らう、それには政黨を止めて貰はねば出来ない。私は政黨解消そのもの、目的ではありません、政黨人と雖も愛國心をもつてゐます。政黨にも立派な人もあるけれども、日本

には 天子様を家長戸主であるとして吾々は反省して、非常時をぬける様大改革をして昭和維新にはいらう、その先決問題として政黨解消を叫んでゐるのであります。目的は斯う云ふ譯であります。それで貴方方郷軍人の方々は地方に於て何れも矢張り指導しておいでになる方々であります。それと青年に始終訴へる青年の熱でなければ大改革は出来ない。

ロシアは五ヶ年計畫を四ヶ年計畫に縮め、そうして主義が良からうが、悪しからうが重工業に向つてどしどし進んでゐる。重工業と云ふものはエライ戦闘機關をドン／＼作つてゐる。今日の露西亞は一朝事があれば百萬、二百萬の兵を送り出す事の出来る様全力をあげてゐます。日本人は聯盟脱退してそろ／＼小康にやすんじ、二ヶ年半前の滿洲のテイタラクも忘れてゐる。當時の内地日本人は二年半前の事は何にも思つてゐなかつた。遂に滿洲の同胞は破裂した、第一線を承つたのが軍人でありませぬ。軍人のお蔭で滿洲を大道闊歩する事が出来る様になつたのであります。それにもう軍人のやり方が悪いと云ふものが多くなつて來た。二ヶ年半前の事を思つたら、言はれた義理ではありません。今日滿洲があゝなつたのは政黨のためか、政黨は妨げこそしたではないか 天子様の爲め國の爲めに戦ふてくれた軍人のために滿洲は出來たのであります。日本の二倍半もありませぬ、軍人のやつた仕事は感謝こそしなければならぬ。二年半前を顧み、今日の滿洲を觀れば、歐米諸國もたゞ滿蒙の變革に就ては驚嘆するだらうと思ひ、私は確信してゐる。それは我が忠良なる兵士が犠牲なつて屍となつて、命を捨て、呉れたのであるからである。政黨人が行つて何をして呉れたか、それにもう悪口を云ふ日本人は氣が短くて變り易い、それで一體何が出来る。ロシア人の指の爪のアカでものむがよろしい。吾々は現代の非常時に對し、認識を新にし、もう一つ禪をしめなをして非常時なる決心を持つて我々はたゞ 天子様あるのみと、これだけをしっかりと考へて貰つて進むより道はない。最後に申し上げます。御互に日本精神をとり返し、さうして我國の歴史をよく研究しこゝに本當の大和民族の使命を世界的に宣揚し、御互に認識され、くだらない自分の爲めにする者ある者に感はされる事なく一路邁進御互にこの帝國を磐石の上に置きたい。斯様に考へる。長時間御靜聽を煩はし有難う。

第三、非常時局に際し學生に望む

一、興國日本の大使命

今日多數の學生諸君に御目に掛るこの機會に、學生青年諸君が私に對し熱烈なる後援をなし下さることに對して深く御禮を申し上げます。

私は最近我國は世界的に如何なる立場に在るかを深く注視してあるものであります。

歐米の國を見て、更に遠くから日本を望みまして、更に國內状態を靜觀致し、我國非常時打破の必要を感じ今回の決意を以て皆様御承知の進退をなしたものであります。其の進退の因である所の非常時局、世界の變局、内治の状態、今後日本國家として行くべき道を、極めて短時間の間に話して見たいと思ふのであります。特に學生諸士の御参考になると思ふ點を話して見る心算であります。

第一に日本國民全體に何となく日本は三大國の第一の地位にある様に思ふてゐはしないかと云ふことであります。私は其の前に日本の開國、八十年の歴史を振り返つて見たいと思ふ。黒船が浦賀の沖に來た時は、日本國民の驚き方は如何でありましたか、實に笑止な大騒ぎをやつた其の當時の外國は、日本に對しては非常な好意をもつてゐました。其の事實は今日私共も認め得る事柄であります。一口に好感をもたつて來と云ふが、云ひ換へれば大人が小供を可愛がる様な感情でありまして諸外國の間に介在し、國家としての存立上に於てはむしろ累卵の危きにあつた、所が我々の祖父等は國家存立の危機を憂ひて國內の改革を遂げ、王政復古はなり明治維新と云ふものが成つた、明治維新と云ふものがなかつたならば夙に日本は亡びて居たものであらうと思ひます。又從て隣國支那はとうの昔に亡んでゐたであらうと思ふ、從て今日の極東問題は起つて居るものでないかと考へられます、斯く考へて見ると我國の存在威信と云ふものは極東のみならず、全世界に向つて深い〳〵意義を持つてをるのであります。けれども明治初年に於ては日本は其の勢力微々として、世界各國は其の存在を認めておらないのであつたが、明治廿七年朝鮮の問題で日清戦争が起つた、當時私は米國に居りましたが米國はこの戦争を如何に見てをつたかと云ふと、支那は日本の十倍、戦は問題でない、無論日本が負ける斯く考へて居ましたが、この考へばかりなら未だ良いが日本と云ふ國があるか無いかさへ知らぬ位だつた。所が驚いた事には結果に於て支那が負けた、

次いで明治三十三年北清事變が起つた、この時日本も歐米諸國と共に兵を出した、この時初めて歐米と肩をならべて戦つた、この時日本軍の勇敢なる行動を世界各國が知つた。列國の急先鋒となつて強い團匪軍を破つたため初めて世界各國は驚いた。次いで明治三十七年露西亞の壓迫暴戻に對し日本は如何ともなし得ない、ぐず〳〵して居てはどうなるか判らない状態であつた。この時全國民一体となりて其當時世界第一の陸軍國として世界に誇つてをる所の露西亞に對して敢然として立つた。この戦も歐米人は最初から問題にして居なかつたのであります、提燈に吊鐘と云ひ日本人は勇敢ではあるが亦向見ずだ、今に日本は潰れて仕舞ふと云つて居たのであります。物質的にもを考へ、打算的に考へる人から見ると日本は當時露西亞に勝てる道理がない、武器も精銳だし左様思ふのは當然であります。夫れに對して日本は國を賭して戦つた其時は國民全体悲壯なる覺悟で戦つた、然しながら連戦連勝南滿洲から北滿洲に敵を追込んだ、各國は驚いた日本は強い戦へば必ず勝つ、戦争の結果から見ると歐米人は驚くけれども、歐米人から見ると何故に日本は強いと判らないのであります。

獨乙のメツケル將軍この人は我國陸軍の恩人ですが、この人が日本に來て日本陸軍を見て感心したさうであります。日露戦争は日本魂が勝つたのであります、諸外國人はこの日本魂の眞價を知らぬ、所が最近日本の若い人々にはこの尊い大和魂を忘れる様な人が出て來た此處に日本の危機がある、全國民の間に一度戦争に行けば再び生きて歸らぬ氣が溢れる、之即ち日本魂の發露であります。この意氣あればこの戦に勝つのであります、私は御當地に來る途中悲壯なる爆彈三勇士の一人たる江下伍長の銅像を見、更に空閑少佐の實家の前にて頭を下げて禮をして來ました。この大和魂の權化となりたる人に對して私共は國家の爲、國民の爲め感謝の辭ないものであります。斯る意氣あればこそ日本は勝つのであります。日本の國民からこの精神を取除いたら日本の總ては滅亡であります、世界の人はこの大和魂の譯は知らないのであります、只だ何故か強い不思議に思つた言葉が「日本軍隊戦好きやな」日本人をして好戰國民なりと言つたのであります。所が日本國民は戦争に勝つのみでない平和的事業にも優良振りを發揮して來た、殊に歐洲大戦を契機として貿易上の發展は急速なるものであります、此の點歐米に劣らぬ様に發展して來た、物質に偏重してをる歐米人は物質問題に對しては一番驚くのであります。貿易上に於て然り、學術の上に於ても日本にも世界的に豪い人が出來て來た、つまらぬ様に思つてきた所の日本人が世界的に躍進して來たのであります。

其他水泳、音楽と云ふ様なものも世界的に躍進を遂げたのであります、斯の如きことは無論國家興亡に關するものでは

ないが、兎角世界を驚かしてをるのであります。其他兵器の充實、貿易、學術と發展進歩の速度を速めたる爲めに、歐米人は日本人を不思議に思ひ且驚き到々恐れ出し、恐るべき國なりとの考へを持ち初めた。貿易の如きは昭和四年の貿易高を一〇〇として今日の狀態如何、昭和八年度米國三〇、英國四一、佛國二三、日本八五と云ふ割合を示して居る、故に英國等は到る所に日本の商品を排斥せんとしてをる。此の點から見る時に日本は世界的に素晴らしい存在を續けてをるものであります、若し日本と云ふ國家が世界的に弱い存在を續けてをるとすれば、歐米各國人は喜ぶであらう。強ければこそ國際聯盟に於て大勢で苛めるではありませんか、日本人に恐れない白人があつてどうなるものでありませう。

其處で今日集つて頂たい學生の皆様は相談致したいことは歐米人が喜ぶ様な日本人とならずして、驚き且恐れる様な日本人となつて頂きたい。否今驚き恐れて居る處の現状をずつと持續けて、更に強く向上させて世界に比類なき日本魂を具備する良國民となつて頂きたいのであります。

斯うした覺悟は皆様は充分お持の事と信するが、若し皆様にこの覺悟が無かつたとすれば國運は必然的に下り坂となる其時になつて微力ながら盡すと云ふ様な微温的なことは不可ませぬ。

皆様の様な若い人が日本人としてつまらぬ者になれば國は亡びるのであります。然し私は現在の狀態から見まして我國民は日本人としての誇りを失ふものでなく、益々之から世界的に隆盛になるものと信じてをるものであります。皆様は大和民族の血を享けて居る若人であり、他國人の知らざる熱血を藏して居る他國人が如何としても眞似ることの出来ない國民性がある。「テリア」の犬は如何にして育て、土佐犬にはならないと同様であります、人間も動物である以上當然であります。

開國以來日本が急速の進歩を遂げたものも日本精神に依る爲めであり、今流れつゝある日本精神は昔の精神に劣らぬことを堅く信じてをるものであります。私共は先輩より豪くなりつゝある國を引繼ぐのであるとの信念を失はない様に願ひ度いと思ふのであります。我々は將に行詰りつゝある現代文明を矯正して救つてやらなければならぬ、この大理想を持たなければならぬ、理想なき民族は存在する價値はないのであります。

我が建國の精神はこの大理想に基きてをるものであります、國民は理想を失つては國家存亡に關係する、この非常時に直面して斷乎として國際聯盟を脱退し、大義を宇内に宣揚する建國の最初に遡る之が

大和民族の精神であります。此處を深く理解し目覺めなければなりません。大和民族は世界の民族を開發し行くべき使命を持つて居ります。

二、女子の教養と國運

故に國民として日本精神は一日も忘れてはならない大なるものであります、抽象的では絶対に不可であります。

日本民族は誰れでも忠孝が判り貞操感が強い、歐米人は物質文明に偏重した爲め忠義、孝行、貞操の意義が判らない状態であります、故に現代の歐米人は女房にも信用する事は出来ない状態である。若し歐米の如く日本社會がなつたならば人間として吾々は何處に信を置くべきでせうか、自分の妻にさへ信用することが出来ないと思ふ悲慘な状態になつて社會が保てるでせうか、信と云ふものがなくなつて人類社會が存在するでせうか、「ローマ」は男女間の道が紊れて亡びたのであります。

私は今日特に女學校の生徒方々に申したいのであります、如何なる國民でも女と云ふものがつまらぬものになると其の國は亡びるのであります。

女は墮落してゐるが其の國は強く榮えると云ふ事實を一度も私は聞いたことはない又歴史にも無いのであります。

女は道德の根本であります、幸にも日本婦人は民族的に總ての長所を以てゐるものであります、此の點は日本を知る各國人の一致したる觀察であります。然るに最近の日本女性に非難される點あるかに聞く事がある、若し日本女性として美德を失ひつゝありとすれば國家的重大問題であります。女は傲慢ではいけない又淫奔に墮落しても不可ないのであります、墮落すれば國家の亡びるのは問題ないのです、私は今日我國の教育を見て寒心に堪へない、折角立派な女を却つて壊してゐると思ふのであります、最も誇り得る所の女と云ふもの迄も壊してゐるのであります。教育は人間を作るにあり、此處に日本の危機が胎します。教育が人間の眞實の精神を壊したからこそ、今日の様な如何はしい人間が出て來るのであります、外觀は兎角心の根本は忘れてはいけません。斷髮可なり、洋装可なり、抑々現在の和服が支那から來たものであるからと云ふ譯では決してないが、然し身心は日本古來の心を保存して行かなければなりません。日本精神に依つて世界に冠たる日本人が出來た、其尊いものを現代になつて崩すが如きは我々祖先に對しても斷じて出

來得る問題ではないのであります、此處を御考へありて立派な日本婦人とならなければなりません、日本の爲めばかりでなくひいて世界の女を救ふ力を持つてゐなければなりません。故に日本婦人を壊すことは人類に取つて罪惡なりと思ふのであります。

三、第二國民の決意

最後に我國は非常時である、久しい事ながら正に非常時であります。益々危機に向ふ以上難關が幾度も來ると云ふことを覺悟しなければなりません。此の決意を有する國民に對する難關は突破易々たるものであります。

我が國は世界を舞臺とする難關を必ず突破しなければなりません、皆様は世界の人々から何處に居るかとの存在さへ知られない様な國民になつて、亡びたいかと叫び度いのであります。

私は先年國際聯盟に全權として出席しました、皆様の後援に依り首尾能く大過なくやつて來まして。彼の「スイス國」の民情を知らしめられましたのであります、スイス國人の品の惡るさを痛感しました、それは中立國として理想も希望もない理想なき國民は一見して直ぐ判るのであります。目標があり、理想があり理想に向ふ時、難關と戰ふのは人間の信念より外にないと思ふ、歴史に現れたる日本精神に依り築き上げたる國民性を能く忘れざる様に務めねばならない。西洋に心酔してはいけません、西洋の事は参考にするが良い、参考にせずして魂を打込んだりするから赤くなつたりするのであります。歴史なくして國家なく、日本は皇統連綿として光輝ある歴史を有し世界に冠たり。

我國の國體の如何を知り、世界の狀勢を見、而して日本の國運が如何に動き來るか、今後更に如何に動き行くかを考へて、若き第二の國民として聽て立つべき第一線を、如何にして守り行くかを考へて頂き度いと思ふのであります。

昭和九年二月二十八日印刷
昭和九年三月五日發行

(不許複製)

編輯兼 發行者	久留米市楠原町七八	石野義助
印刷者	久留米市鍛冶屋町二三	秋山源次郎
印刷所	久留米市鍛冶屋町二三	秋松活版所

卷之四
目錄



3
89